

坂本善三展

パブリックアートからみた坂本善三

熊本市現代美術館では、坂本善三の生誕 100 年を記念し、熊本県博物館連絡協議会との合同企画として「坂本善三展 パブリックアートから見た坂本善三」を開催いたします。

熊本県小国町で生まれた坂本善三は、後半生を熊本市で過ごし、熊本市庁舎のレリーフやホールへの緞帳の制作に携わるなど熊本の美術文化振興に貢献しました。

本展では、熊本市が所蔵する熊本市庁舎に関する作品とその前後に描かれた一連のシリーズに加え、坂本善三美術館のコレクションより同時期に描かれた作品を紹介いたします。また、熊本市所蔵の油彩画、評価が高まった時期に制作された水彩やリトグラフを展示することで、坂本善三の公共空間における作品のあり方を探るとともに、熊本ゆかりの画家、坂本善三のこれまでの軌跡を辿ります。



《建物の構成》1958-60年



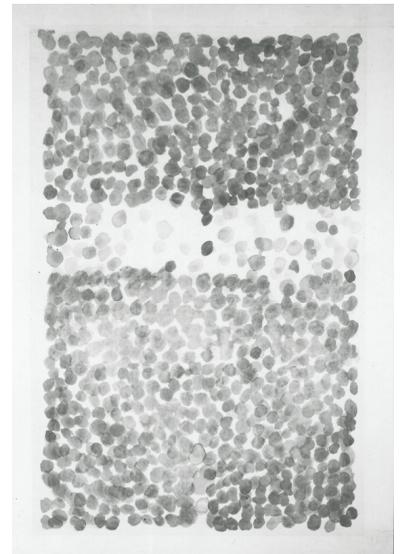
《城》1981年



《静物》1963年



《炎》1975年 坂本善三美術館蔵



《集》1987(1982)年

街なかにある、坂本善三の
パブリックアートを見てみよう!

関連イベント

くまもとアートな街歩きツアー・坂本善三編

日時：5月20日(金) 13:00～15:00

集合場所：ギャラリーⅢ

定員：20名程度(要事前申込、参加無料)

※歩きやすい服装でお越しください。小雨決行。

案内人：坂本顕子(熊本市現代美術館学芸員)

予定コース

ギャラリーⅢ(展示会のミニ解説)→市庁舎14階ホール(緞帳《茜》をじっくりと見よう!)→熊本市庁舎1階ロビー(下絵をもとに、レリーフ《炎》の謎を解こう!)→熊本城(作品に描かれた石垣を探してみよう!)→休憩、解散

坂本善三(1911 - 1987)

1911年熊本県小国町に生まれる。

旧制大津中学校卒業後に上京、本郷絵画研究所、帝国美術学校(現武蔵野美術学校)に学ぶ。

1935年に入隊し、召集と除隊を繰り返しながら制作する。終戦を機に熊本に戻り、制作を再開。1947年から海老原喜之助に師事し、独立賞を受賞。1952年に熊本市に居を構える。1957年ヨーロッパに渡り、1959年に帰国。1968年第9回日本国際美術展招待出品作《連帯》を文部省が買い上げる(現在東京国立近代美術館所蔵)。その後、熊本県美術家連盟会長に就任するなど熊本の美術文化の振興に努める。1981年に熊本市新庁舎の壁画、緞帳を制作。1986年 FIEST 展(パリ)でリトグラフィ「構成 80」が専門家賞(Prix Professionnel)を受賞。

1987年熊本市にて死去。

